

1. 研究課題名：

わが国を中心とした温室効果ガスの長期削減目標に対応する緩和策の評価に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

芦名 秀一（独立行政法人国立環境研究所）

3. 研究実施期間：平成 26～28 年度

4. 研究の趣旨・概要

本研究は、技術以外の視点も加味して 2050 年の長期目標に対応した短中期的にも実現可能な緩和策の検討のために、日本及び世界を対象とした新しい社会経済シナリオの作成及び産業構造や素材ストック、ライフスタイルの姿などのマクロフレームの定量化と、それにより将来の温室効果ガス排出経路はどのように変化するかを定量的なモデル分析を通じて明らかにするものである。

本研究を通じて、2050 年までに「産業構造や人々のライフスタイルを含め、社会をどのように変えていけば、より効果的、効率的に温室効果ガス排出量を削減できるか」といった新たな社会像に向けて必要な施策およびその実現ロードマップを具体的かつ定量的に提示することを目指している。

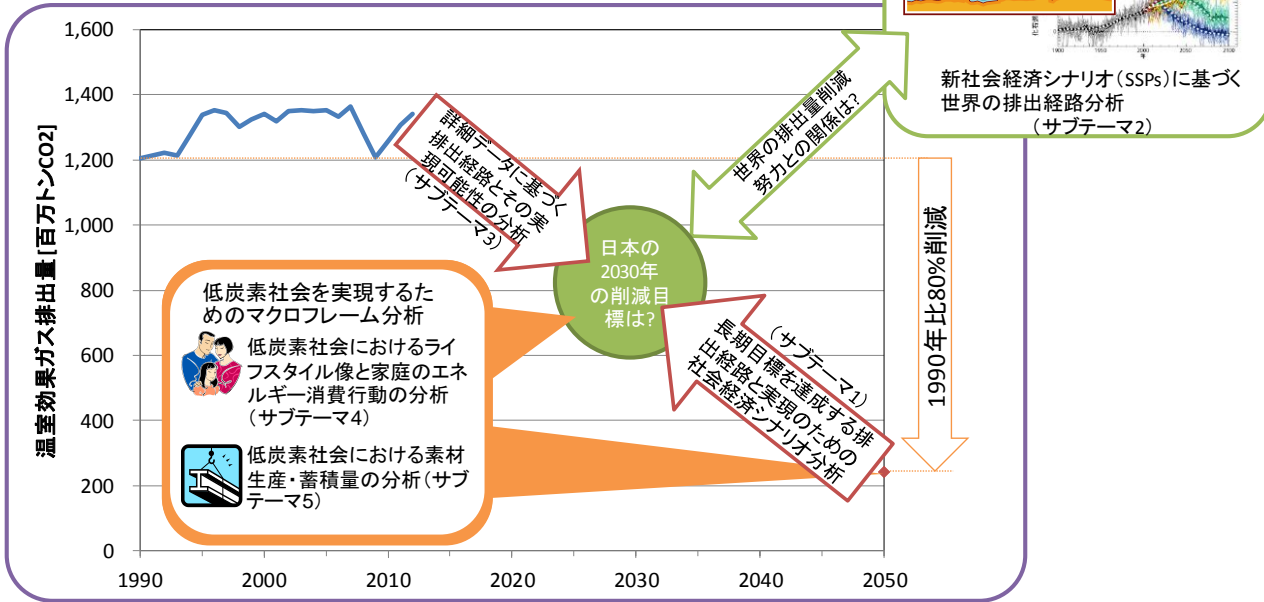
5. 研究項目及び実施体制

1. 2050 年を対象としたわが国の長期削減目標の実現に向けた排出削減経路の検討
(独立行政法人国立環境研究所)
2. 世界を対象とした将来シナリオの検討とその定量化
(独立行政法人国立環境研究所)
3. 日本を対象とした 2030 年の温室効果ガス削減量の定量化
(みずほ情報総研株式会社)
4. ライフスタイル変化を考慮した家庭のエネルギー消費行動に関する研究
(独立行政法人国立環境研究所)
5. 社会におけるエネルギー集約素材の蓄積からみた将来シナリオの検討
(国立大学法人京都大学)

6. 研究のイメージ

(2-1402) わが国を中心とした温室効果ガスの長期削減目標に対応する緩和策の評価に関する研究

(独立行政法人国立環境研究所・みずほ情報総研株式会社・国立大学法人京都大学)



達成目標: 低炭素で気候変動に柔軟に対応するシナリオづくり

- 低炭素社会実現のための社会経済シナリオやマクロフレームのあり方は?
- 2020年以降の世界及び日本の温室効果ガス排出経路は?
- 日本低炭素社会を実現するための産業構造やグリーン成長の姿とは?
- 低炭素社会実現のための社会の新たな発展パターンや社会・技術イノベーションの道筋は?

